



はぐくみ

安城中部小学校 学校通信

令和6年7月号 6月25日



ザリガニ保護団体

安城中部小学校長 稲留 雄一

いつものように、休み時間にミニ明治用水を眺めていると、これまたいつものように、子どもたちが小さな生き物相手に、大騒ぎをしていました。そんな中、二人の男の子が近くにやってきて「僕たちザリガニ保護団体です」と言うのです。何の事だろうとその様子を見てみると、短い枝で水をかき回して泥を巻き上げ、水を濁らせているのです。ザリガニを探している子どもからは離れたところでやっているの、直接ザリガニ捕みを邪魔するものでありませんでした。この二人には、みんなに捕まれてしまうザリガニがかわいそうに見えたのでしょう。ザリガニを捕まえようとしている子どもとのトラブルにならないか気を配りながら見守っていましたが、トラブルもなく、休み時間は終わりました。

一つの事柄をいろいろな角度からとらえることはとても大切なことです。子どもたちの小さな世界にも、違う見方をして行動する姿があるのです。大切にしたい姿だと思いました。私たち大人も、ともすると日常にあることが当たり前で、問題意識をもつことができずに過ごしています。感謝の気持ちすら忘れてしまいがちです。小さな問題意識が新しい挑戦につながるきっかけになります。小さな問題意識や気付きの大切さを私たち大人が認識して支えていくことが、子どもが自ら育つ学校づくりにつながっていくのだと思いました。日常の生活の中で大切に育てていこうと思いました。

さて、まもなく七夕です。古くは奈良時代の宮中行事として行われていたものだそうです。七夕のお話は、織姫（おりひめ）さまと彦星（ひこぼし）さまが天の川を渡って、1年に1度だけ出会える7月7日の夜のことです。私たちは短冊に願い事を書いて、笹竹に飾り付けます。「雨が降ると天の川が渡れない」と心配して、てるてる坊主をつるす人もいます。



折り紙で作る七夕飾りにはいくつかの種類があり、「七つ飾り」と呼ばれるそうです。それぞれに意味が込められています。また、五色の短冊の色にもそれぞれ意味があります。そういえば、7月5日（金）の給食には「七夕汁」が出ます。どうして七夕にそうめんを食べるのでしょうか。

五節句の一つである七夕。ご家族でその意味や古くからの風習について話題にしてはいかがでしょうか。昔の人の願いや思いに触れることができると思います。皆さんは短冊にどんな願いを書きますか。

夏休みまであとわずかとなりました。1学期の子どもたちの成長ぶりはいかがでしょうか。できないことが少しだけできるようになったり、得意なことがもっと得意になったり、新しい発見があったり、夢中になれることができたり、ザリガニ保護団体を結成したり……。7月はまとめの月でもあります。小さな成長、小さな発見を丁寧に見取って、子どもたちを励まし、楽しい夏休みへ、そして2学期へのステップにしていきましょう。

安城中部小学校の子どもたちの
素敵な笑顔と健康が
いつまでも続きますように

